



現代日本の怪談集には、いくつかの伝説的な金字塔がある。  
 「あなたの知らない世界」を拓いた現代怪談の開拓者、**新倉イワオ**。  
 心霊写真をスターダムにのし上げた、**宜保愛子**。  
 90年代の怪談をリードした現代実話怪談の雄、**新耳袋**。  
 独特な語り口の怪談話芸を極める怪談王、**稲川淳二**。

その中であって、  
**1991年から2000年までの10年間、毎年1冊の新刊を世に送り続けた、  
 伝説的怪談シリーズが存在していたことをあなたはご存じだろうか。**

10年の間に送り出された巻数は実に11集を数える。  
 同一著者チームによって編まれた、同一コンセプト同一タイトルの怪談シリーズとしては「新耳袋(1~7)」が知られているが、「超」怖い話が打ち立てた二桁台にも及ぶおびただしい巻数は、怪談史上最多シリーズ記録として、あの「新耳袋」にすら破られていない。

1991年に産声を上げたシリーズは、毎年1冊、ときには2冊というハイピッチで怪談を吐き出し続けた後、1997年に一度はその幕を閉じた。  
 しかし、シリーズが眠りにつくことを許さなかったのは、恐怖の虜となった多くの読者だ。

「今年の新刊は？」

「来年は出るのか？」

「もう一度、再開しろ」

『「超」怖い話のない夏など考えられない』

読者による復刊を求める声は版元をすらすら動かした。同一タイトル同一チームによる同一コンセプトのシリーズとして、奇しくも1999年に再開するが、2000年7月を最後に、突然の……そして二度目の沈黙期を迎えた。



読了したら必ず捨てていた。

だって、

思い出したくないほど怖かったから。

だけど新刊は必ず買っていた。

だって、

あの恐怖をまた味わいたかったから。

恐怖と伝説は、発信者の意図など顧みない。もう手に入らない。あんな怖い話はもう二度と読めない。シリーズ終了から2年の歳月を経た今も、とうに終わっているはずの「超」怖い話という伝説を求める、怪談ジャンキーが後を絶たない。一度目にした者は、全てを読まずにはいられないからだ。しかし、初代版元・勁文社の倒産に伴い、出版社在庫はおろか古書店を巡り歩く他に、全巻コンプリートは不可能と言わしめた。

あなたは、恐怖の輪郭を撫でたことはお有りか？  
 それは見えない。見えてはいけない。見るべきではない。  
 「超」怖い話は、何が入っているのかわからない袋のようなものだった。  
 口をほつかり開けたその中に手を入れる。  
 中にいるのが何であるかを直視することは決してない。  
 我々は手触りでしかそれを識ることはできない。  
 識らなければよかった、と後悔してももう遅いのだけれど。

**100%レアではない。  
 しかし、100%のフィクションはひとつもない。**

「超」怖い話が眠りにつくことを許さないのは誰か。

「超」怖い話を呼び覚ますのは誰か。

なぜ心静かに眠らせておいてくれないのか。

あなた方はそれほど**恐怖**に飢えているのか。

では、その期待にお応えしよう。

後悔などしてももう遅い。

この**恐怖**を求めたのは、あなた自身なのだから。

**2003年1月竹書房より  
 最新刊発売予定 (予価 552円)**

<http://www.ekoda.jp/chokowa/>